



とらいあんぐる



2015 年 7 ・ 8 月

一音会ミュージックスクール発行

「はじめての発表会」

また発表会の季節がやってきます。

今年、はじめて舞台に上がる生徒さんも、いらっしゃることでしょう。

何度も、舞台に上がってきた生徒さんは、すでに発表会の思い出をお持ちですね。どの年の思い出も、大切な宝物になっていることでしょう。

発表会の思い出は、格別です。

私にも、発表会の思い出があります。

おとなになってからも、この時期になると、よく思い出します。

緊張したこと、ほっとしたこと、うれしかったこと……。

中でも、胸がしめつけられるような思い出があります。

それは、はじめての発表会の思い出です。

当時、私は4歳でした。3歳だったかもしれません。幼すぎて、年齢は定かではありません。

その年の発表会の思い出も、実は多くがおぼろげです。発表会の前後の思い出も、ほとんどありません。

そのくらい、私は幼かったのです。

しかし、舞台上でおこったことは、はっきりとした記憶となって残り、私にとっては苦い思い出となって、40年以上もの間、苦しめられてきました。

私が4歳の時、母は長い入院生活から戻って、そう時間がたっていませんでした。母は、私のほかに、2人の生徒さんを教えていました。

たった3人の生徒です。

なぜ発表会を開くことができたかという、母が発病前に音楽大学で教えていた学生さんたちが、すでにピアノの先生となっていて、その先生方の生徒さんたちと合同の発表会だったのです。

私は、発表会の当日になっても、発表会がどういうものなのか、よく分かっていませんでした。

みんなの前でピアノを弾くということは、知っていましたが、こんなに大きなところで、こんなにたくさんの知らない生徒さんにまじって、弾くとは思っていませんでした。

おとなも子どもも、びっくりするほどたくさんの人たちが来ていました。

私にとっては、母と母の2人の生徒さん以外は、みんな知らない人です。

母は忙しそうでした。

かつての教え子の先生方は、母にしきりに話しかけていました。その先生

方の生徒さんも、みな母を囲んで、何か話していました。

私は、混乱の中、母に話しかけたくても、なかなかできませんでした。

母が、私の相手だけをしているわけにいかないのは、今の私なら、よく分かります。

しかし、当時の私は、分かりませんでした。

「なんだか、いつものママじゃない人みたいだ・・・」と、思いました。

突然、別の世界に入り込んでしまって、ママも突然、別の人になってしまったかのようにでした。

私の中で、緊張と不安が大きくふくれあがり、私は頭がぼうっとなっていました。

その発表会では、私が最年少でした。そのため、私が「プログラム1番」でした。

ほかの人がどう弾くのか、見ないまま、自分が弾くことになってしまったのです。

発表会というものが、とことん分かっています。

うながされるまま、1人で舞台中央

まで、トコトコと歩いていってみました。

何度も振り返りますが、誰もついてきてくれません。「そういうものなのかなあ・・・」と思いながらも、「ママも来てくれればいいのに・・・」と、チラリと思いました。

舞台中央に立ってみます。立っているだけで精一杯でした。おじぎをしたかどうかは、覚えていません。

今年の発表会プログラムの表紙で、舞台の上で途方にくれている小さな女の子は、あの日の私です。

女の子は、その後、無事、ピアノの椅子にすわります。どうやってすわったかは、ぜんぜん覚えていません。

弾こうかな、と思うのですが、そういう気分になりません。

そして女の子は、たいへんなことをやらかすのです。

「いつもおうちでピアノを弾く時は、ママがそばにいてくれるのに・・・。そうか、ママを呼べばいいんだ！」

女の子は、大きな声で「ママ～！」と叫んだのです。

ほんの軽い気持ちでした。

発表会の独特な空気にもみこまれて、私は圧倒されていました。

「ぜったい、これは“ウソの世界”なんだ・・・ママが近くに来てくれれば・・・いつものように、ママがそばですわっていてくれれば・・・そうしたら、すべてがくるっとひっくりかえって、いつもの世界に戻る・・・」、そんな気がしていました。

たいへんなことをしでかしたと気がついたのは、その直後です。

母は、歩けなかったのです。

いつの時代も、私はそのことを忘れていきます。

母は、杖をつきながら、不自由な足をひきずり、長い長い時間をかけて、舞台中央の私のところまで来てくれました。

客席の大勢の人たちがみんな、かたずをのんで、母の不安定な足取りを見守っていました。

母がたどり着くまでの、長い長い時間、私は後悔でいっぱいでした。

長い長い時間に感じられました。

たどり着いた母は、顔中、汗びっしりで、それでも私ににっこりと笑っ

てくれました。

母は、いつもの母でした。

私の記憶はそこまでです。

その後、どうやってピアノを弾いたのかも、どうやって退場したのかも、覚えていません。何の曲を弾いたのかも、まったく覚えていません。

母は、舞台中央に来るのと同じ時間をかけて、舞台袖に戻ったはずなのですが、母が戻っていった姿も、覚えていません。私はその姿を見なかったのかもしれない。

いろいろなことが分かっていなかった幼い私でも、とんでもないことをした、母にたいへんな恥をかかせた、ということとは、よく分かりました。

母の汗が、暑かったせいではなく、痛みからくるあぶら汗であったことも、分かっていました。

あの日のことを思い出すと、私は今でも、大声で泣きたくなります。

実際、約40年の間、大声を出して泣いたことが、数えきれないほどあります。

しかも私は、あの日のことを、一度も母に謝っていません。

あまりにも重く、あまりにも申し訳なく、あまりにも情けない思い出であったために、口に出す勇気が出ませんでした。

とうとう謝らずじまいだったことが、今度は私を苦しめています。

母が、あの日のことを覚えていなかったわけがありません。

ですが母も、一度もあの日のことを話題にしませんでした。

いえ、むしろ母が一度たりとも話題にしなかったことこそ、母が覚えていた証拠です。

小さな生徒さんが舞台上上がる姿を見る時、いつも私の心は、あの日の小さな女の子になってしまいます。

「がんばって!」、心が勝手に舞台上にとんでいってしまうのです。

(江口 彩子)



◆「お人形のダンス」のリハーサルをおこなっています

「ピアノ発表会」では、まだピアノのレッスンを受けていない小さな生徒さんが主になって、リトミック発表をおこないます。ご家族の方々にも、舞台上に上がっていただき、アットホームな楽しい演目になります。

8月1日（土）と2日（日）に、発表があります。それに向けて、練習を重ねているところです。

7月5日（日）には、あいにくの雨模様の中でしたが、多くの生徒さんとご家族の方々にお集まりいただき、「ひびきホール」で、第1回目のリハーサルをおこなうことができました。貴重な休日のお時間を、リハーサルのためにお使いいただき、ご協力くださいましたご家族の皆さまには、心から感謝しています。

「くるみ割り人形」の曲にのって、雨をはじきとばすような、元気いっぱいのダンスに仕上がり、本番がますます楽しみになってきました。

2回目のリハーサルは、7月20日（祝）12：30～に、おこなう予定です。場所は「ひびきホール」です。リハーサルは、参加無料です。

出演される生徒さんは、ぜひ参加して、いつもより広い場所、いつもよりたくさんのお友だちの中で、動く経験をなさってください。本番に近い雰囲気を経験しておくことは大切です。



◆いよいよ「ピアノ発表会」です

ピアノ発表会は、下記の通りです。

7月30日(木)・31日(金)・8月1日(土)・2日(日)

成増アクトホール

(東武東上線「成増」駅より徒歩1分)

(東京メトロ有楽町線副都心線「地下鉄成増」駅より徒歩3分)

とうとう、発表会まで、1か月を切りました。「リハーサル・トライ」も、はじまります。

残り期間が少なくなり、焦っていらっしゃる生徒さんも、いらっしゃるでしょう。同時に、少し投げやりな気持ちが入りはじめてくる頃でもあります。

しかし、焦らずくさらず、練習を重ねてください。ここからのラストスパートで、急激に上手になる生徒さんが、毎年、大勢いらっしゃいます。やはり発表会という大きな目標が、生徒さんの力を引き上げるのだと思います。

発表会に向けて、すべての生徒さんが、飛躍することを確信しています。どうかケガをしないよう、十分に気をつけてお過ごしください。

現在、「ピアノ発表会 しおり」と「ピアノ発表会 プログラム」をお配りしています。主担当の先生からお渡しするようにしています。



「ピアノ発表会」では、すべての生徒さんにすてきな演奏をしていただくことが大きな目標ですが、それ以上に重要な目標として、お一人のケガ人を出すこともなく、無事に進行させるということがあります。

生徒さんが舞台上上がるまで、また演奏を終えてご家族のもとに戻るまで、誘導には多くのスタッフを配しています。客席からは見えない舞台そでは、上手にも下手にも、たくさんスタッフがいますので、どうかご安心ください。

スタッフ一同、事故をおこさないよう、目を光らせるつもりでおりますが、やはりご家族の皆さまのご協力も不可欠です。会場で不審な人物を見かけた場合には、会場のスタッフにご連絡ください。

その他、当日、ご不安なこと、ご不明なことがありましたら、遠慮なくスタッフにおっしゃってください。一音会Tシャツを着ている者はすべて、ご対応できます。

◆たくさん演奏をききましょう

「ピアノ発表会」では、自分が発表することに、気持ちが集中しがちです。しかし同時に、たくさんのお友だちの演奏をいっぺんにきくことができる、貴重なチャンスでもあります。

ぜひ、一人でも多くのお友だちの演奏を、客席できいてください。ほかの人の演奏をきくことも、大切な勉強です。

知らない曲との出会いもあります。弾いてみたい曲を見つけられるかもしれません。また、自分が弾いたことがある曲を、ほかの人がどんなふうに演奏するか知るとは、良い勉強になるでしょう。

少なくとも、自分の出演する部は、最後まできいてみてください。そして、お友だちにたくさん拍手を送ってあげてほしいと思います。自分が演奏した時も、たくさん拍手をもらったら、うれしいはずです。お友だちにも、拍手をプレゼントしてあげてください。

なお、演奏中の出入りや立ち歩きは、おひかえください。フラッシュ撮影や音の出る撮影も、弾いている生徒さんをびっくりさせて、演奏に影響を与えてしまうことがありますので、ご遠慮ください。

生徒さんやご家族の方々など、一音会関係の方は、比較的、演奏会のマナーをよくご存知で、一音会のイベントは、おおむねトラブル知らずです。しかし、ピアノ発表会だけは、おじい様やおばあ様、学校のお友だちなど、ピアノ発表会の経験がないお客様もいらっしゃるためか、残念ながらマナー不徹底の印象があります。小さなお子さまの場合は途中退席がやむを得ない場合もありますが、どうか演奏の途中で席をお立ちになる方がいらっしゃらないよう、ご協力をお願いいたします。

当日、スタッフからもお声かけをするつもりでおりますが、ご家族以外の方をお招きになる場合には、事前にマナーについて、お伝えいただきたいと思います。



◆「音楽祭」のオーディションをおこないます

12月23日（祝）、葛飾区かめありリリオホールにて、「音楽祭」を開きます。

「音楽祭」では、主にオペレッタ発表をおこないますが、以下の演目では、生徒さんの中から、広くキャストを募集します。いずれも重要な役ですので、意欲ある生徒さんに、ぜひご参加いただきたいと思っています。

普段、リトミックを受けている生徒さんは全員、「音楽祭」の演目にすでに組み込まれていますが、その演目とは別に、以下演目キャストにご応募いただけます。また、「うたくらぶ」の生徒さんも全員、「音楽祭」にご出演いただけますが、「うたくらぶ」の演目と「しらゆきひめ」（もしくは「星に願いを」）、両方に出演可能です。

またとないチャンスです。挑戦してみませんか。



★募集演目（役）

「白雪姫」（白雪姫・王子・魔女・小人・動物）

「星に願いを」（月の精・少女）

★オーディション

8月30日（日）

午後3：30～（ショパンはうす 10 番）

★参加資格

- ・小学校1年生以上の生徒さんまたは卒業生
- ・9月～12月の練習とリハーサルに参加できる方

どの役も、歌やセリフがありますので、オーディションでは、決められた歌やセリフを披露していただきます。くわしくは、「キャスト募集要綱」をごらんください。

「キャスト募集要綱」は、ショパンはうす受付に、ご用意しています。声楽担当スタッフも、ご質問におこたえすることができますので、ご不明の点は、ショパン受付、本部、もしくは声楽スタッフに、お気軽におたずねください。

オーディションにご参加希望の場合には、8月23日（日）までに「応募用紙」に記入の上、ショパンはうす受付にご提出、または本部にFAX、郵送でお送りください。

なお、「音楽祭のお知らせ」は現在作成中です。後日、全員にお配りいたします。

◆スケジュールをお知らせします

「ピアノ発表会」が終わると同時に、教室は夏休みになります。一音会本部の夏休みは8月9日（日）～15日（土）です。その間は、お問い合わせにお応えできなくなりますことを、ご了承ください。

夏休みあけのレッスンは、8月17日（月）からです。お間違えのないよう、今一度、年間スケジュール表をご確認ください。皆さまにとって、楽しい夏休みになりますことを、心から願っています。



スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

- * お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。
- * ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。